

公表

第 62 回技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 競技要領

取り決め事項

1. 注意事項

- (1) 選手は、作業に適した服装および靴を着用すること。
- (2) 工具等の整理整頓や作業場所の清掃は、常に実施すること。
- (3) 競技中、安全に十分留意して、怪我のないように作業すること。選手が怪我をした場合、2名とも作業停止して、直ちに手当を行うとともに、競技支援員（以下、審査員という。）は計時中のストップウォッチを停止し（最大 30 分）、中断／再開時刻を記録する。ただし、他チームの原因で発生した場合は競技委員会の判断で対応する。
- (4) 競技中、工具および材料の貸し借りは禁止する。
- (5) 他選手の競技を妨害する行為をしないこと。
- (6) 選手が作業場所を離れる場合は、審査員の了解を得ること。
- (7) 大会前日のメモリクリア実施以降、選手・審査員はパソコン、携帯電話、無線通信機能付き時計（電波時計、GPS 機能のみの場合を除く）、USB メモリ等のメディア、課題、手書き資料等を競技エリア外へ持ち出すこと、競技エリア内に持ち込むことを禁止する。また、クレーム提出の際、競技委員会が設置した無線 LAN にアクセスすることを除き、無線 LAN の使用を禁止する。
- (8) 許可された者以外は、競技エリア内で写真・ビデオ等の撮影、カメラ等の設置を禁止する。
- (9) 全ての競技が終了するまでの間に競技委員・審査員よりルール違反（不正行為、危険行為を含む）が報告された場合は、主査がその事実を確認し、違反内容に応じて注意・減点・得点剥奪・失格の処分を行う。
- (10) 全国大会競技規則に記載された事例に準ずる重大な違反、又は倫理行動規程の違反があった場合、安全衛生に関する指示に従わないケースが繰り返された場合、技術委員会の判断により失格となる。
- (11) 競技期間中（2 日間）は、選手、審査員および競技主査、競技委員、競技補佐員以外の競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- (12) 審査員は、競技中に企業名、学校名の入った衣服を着用してはならない。
- (13) 審査員は、「審査員研修」に参加しなければならない。
- (14) 審査員は、公平な立場で審査するものとし、競技当日の課題内容説明会に参加してからその日の競技が終了するまでの間、審査担当チーム以外の選手や外部の者との接触を一切禁止する。また、必要なく担当エリア以外の場所に立ち入らないこと。
- (15) 競技委員・競技補佐員、その他許可を受けた者以外は、競技設備搬入時からメモリクリア終了まで、他チームエリアへの立ち入りを禁止する。
- (16) 予備品はすべてエリア外に保管し、競技中必要となった場合、クレームと同様必要な予備品を記載した上で、競技委員立会いのもと取りに行くこと。（持参工具等一覧注意事項 1～3 を参照のこと）

2. 禁止される危険行為（代表例）

	危険行為	理由
1.	電源を投入したまま、配線作業をしている（I/O ケーブルを外しただけでは危険）。	感電やショートにより受傷する恐れがある。
2.	エア源を投入したまま、配管作業をしている。	配管が抜けた際、エアの勢いでチューブが跳ね、目や体に受傷する恐れがある。圧力がかからないと想定される箇所も、同様の扱いとする。
3.	（保護）メガネを着用せずに、ハンダ付け作業をしている。	飛びハンダなどが目に入り、受傷する恐れがある。
4.	（保護）メガネを着用せずに、穴あけ作業をしている。	切りくずなどが目に入り、受傷する恐れがある。
5.	工具等を床面に放置したまま、ステーション上の作業をしている（制御盤配線作業時等は良い）。	踏んだりつまずいたりすることにより、捻挫・転倒の危険がある。

6.	プロファイルパネル上のごみを、エアブローにより除去している。	飛散したごみが目に入るなど、受傷の恐れがある。
7.	支給部品の箱の開梱に、刃物（カッターナイフ、はさみ等）を使用している。	誤って手を切るなど、受傷の恐れがある。
8.	部品の包装袋の開封時、カッターナイフで袋を空中切りしている。	誤って手を切るなど、受傷の恐れがある。
9.	仕様書にて切創手袋の着用指示のある作業において着用しないで作業を行っている。	誤って手を切るなど、受傷の恐れがある。
10.	ロボットの動作速度が 250mm/s を超えている。	ロボットに挟まれる、ロボットに衝突するなどにより、受傷の恐れがある。

3. プログラム作成について

- (1) 参加チームは、競技で使用する PLC の機種、タッチパネルの機種、ロボットの機種、全てのソフトウェアの種類を事前に公開し、競技委員会の確認をとること。
- (2) 全てのプログラム、データファイルは、競技時間中に新規に作成する。ただし、ソフトウェアの初期設定（キーバインドの変更、ネットワークの設定など）、および競技委員会が許可したファンクションブロックに限り、事前準備して良い。
- (3) パソコンには、競技に使用しないデータファイルを保存しないこと。また、競技に使用しないソフトウェアで、誤解の恐れのあるものをインストールしないこと。

認められる例（競技開始前におけるプログラムの事前準備は下線部項目のみ許可する）：

- 競技開始前（設備を持ち込む前など）にローダソフトの設定を行う（コンパイルを独自のキー操作に割り当てる、a 接点の入力を独自のキー操作に割り当てる、PLC との接続のための設定を行う、I/O アドレスの定義を行う、など）
- 競技開始前に、ハードウェアの各種システム構成定義、アドレス設定、変数（ラベル）定義を行う
- 通信モジュールへの初期設定のための定義、または設定のためのプログラムを事前準備する
- 通信モジュールと CPU のメモリへのデータ交換のための設定、またはプログラムを事前準備する
- タッチパネルと PLC 間でのデータ交換のための設定、またはプログラムを事前準備する
- 事前に競技委員会の確認をとり、表計算ソフトウェアを使用する（コメントファイル、データファイル、マクロプログラムは競技開始後に新規作成する）
- 事前に競技委員会の確認をとり、各種インテリジェントモジュールの設定を行うため、コンフィギュレータソフトウェアを使用する（データファイルは競技開始後に新規作成する）
- いわゆるゲーミングマウスの使用は原則禁止とするが、ホイールを含めた押しボタンスイッチの個数が 5 個以内のマウスの使用は認める。ただし、OS 標準機能以外の動作を事前に割り付ける行為は禁止とする（競技開始後の割り付け作業は許可する）。
- ワイヤレス式キーボードおよびワイヤレス式マウスの使用は可とする。ただし、これらは競技者が使用するパソコンとの間の通信のみに使用することを前提とする。したがって、これらに用いる通信設備は他の機器との通信に使用してはならない。

4. 課題審査について

- (1) 作業が完了したら声掛けと挙手により、審査員に意思表示を行うこと。
- (2) 課題審査中、選手は審査員の指示に従い操作を行う。選手は 2 名とも審査に立ち会い、指示されていない作業をしてはならない。審査中、選手が審査員から指示されていない作業を行った場合、審査を打ち切って NG 扱いとする。
- (3) 課題審査で設備のサイクルタイムを計測する場合は、審査員の指示に従い選手がストップウォッチを操作する。このとき、ストップウォッチのスタート・ストップのタイミングと計測の状況を、審査員が確認できるようにすること。

5. 競技中のトラブル対応

- (1) 競技中にトラブルが発生した場合は、選手が審査員に申し出ること。
- (2) 課題不備などのクレームは、計時中にタブレットで競技委員会に提出する。または、選手 1 名が書面にまとめ、クレームコーナーに提出する。回答は各チームの競技エリアにて待つこと。

- (3) 設備・部品で故障等が発生した場合は、原則選手の責任で対応する。
- (4) 支給部品で故障等が発生した場合は、競技委員会の判断により再支給を行う場合がある。ただし、支給時に欠品や破損があったことが明らかである場合は、部品の再支給を行うとともに、再支給の手続きに要した時間を補償する。
- (5) トラブルに対する競技時間延長等の判断は、競技委員会が行う。

競技前日までの準備

設備仕様チェック

- 動作確認用プログラム（PLC プログラム+ロボットプログラム）を用いて、設備仕様・改造・動作速度等についてのチェックを行う。設備チェックは、提出時の状態・機能を保証するものではない。したがって、ゴミの有無などをチェックの対象外とする。
- 競技設備仕様書と異なる場合は、競技開始までに修正する。

確認項目	担当者	内容
設備仕様	競技委員または審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初に、全担当でチェックの手順と内容の確認（レベリング）を行う。 ● 設備仕様書に照らし合わせ、各チームの設備についてチェックする。 ● 主要チェック箇所のリスト、担当者のリストをもとに実施する。

電源容量確認

- 動作確認用プログラムまたは可能な範囲で、競技用 FA モデルとロボットを全チーム一斉に動作させる。
- 競技で使用する機器（コンプレッサ、はんだごて、パソコン等）を動作させ、不具合が生じないか確認する。

メモリクリア

- 生産設備のハードウェア同様、動作プログラムも何もない状態から作成することを想定していることから実施する。
- 予備を含む全 PLC と、ロボットの動作プログラムを消去する。
- パソコン等から動作確認用プログラム、その他 PLC とロボットの動作プログラムを削除する。初期設定用プログラムは削除しなくて良い。

確認項目	担当者	内容
メモリクリア	競技委員または審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初に、全担当でチェックの手順と内容の確認（レベリング）を行う。 ● 全 PLC とロボット動作プログラムのメモリクリアを確認する（プログラムが保存されていない状態）。 ● 辞書ツールの辞書登録がないことを確認する。 ● パソコンに動作プログラムなどが保存されていないことを確認する（ゴミ箱フォルダ内も含む）。初期設定プログラムは保存されていても良い。

課題データコピー

- メモリクリア終了後、A4 部品図、技術資料、パッキングリストを USB メモリから解凍・復号化可能なパソコン/タブレット 1 台のデスクトップにコピーする。コピー後は、データの操作を禁止する。
- USB メモリと課題データは競技委員会であらかじめウイルスチェックしたものを準備した上で、証明書を作成する。
- 解凍・復号化練習用データを用いて、解凍・復号化が可能であることを確認する。

無線 LAN (Wi-Fi) へのアクセス確認

- 課題データコピー終了後、クレーム提出に使用するタブレットを無線 LAN (Wi-Fi) に接続させるために必要な SSID とパスワードを提示し、競技委員会が設置した無線 LAN にアクセス可能であることを確認する。

競技当日

審査業務（審査員）

- 選手の直接作業以外の行動時間を記録する（クレーム、トイレ、復帰時やけが、不具合発生、ルール違反発覚時などのトラブル、など）。競技中にトラブルが発生しても、時間計測は止めない。
- ルールが遵守されているか、危険行為が行われていないか確認する。問題となる行為を発見した場合、直ちに選手に注意を与え、競技委員に報告する。
- プログラム作成開始時、選手にプログラム作成開始を宣言させるとともに、競技エリアで使用する全てのディスプレイが ON であること、プログラム作成における不正がないことを確認する。
- 選手が競技の続行に支障が出る怪我をした場合、直ちに選手 2 名とも作業を停止させ、手当てを行うとともに競技委員に報告し、時間計測を止める。また、中断／再開時刻を審査記録用紙に記入する。
- 選手からのクレーム、予備部品の請求は、無線 LAN にアクセスしてタブレットで提出させる、または、クレームコーナーに書面で提出させる。
- 採点は、チェックシートに従って項目順にチェック（○×を記入）する。チェック項目以外は採点しない。○×の判断が難しい場合などは、状況を文章で記入する。
- 標準課題等の採点で NG があっても、再審査は行わない（1 回の採点につき、ワーク流動は 1 回限りとする）。

第1課題（競技標準時間）

配布資料・支給品

- ステーション製作仕様書 一式
- 単体動作仕様書、標準課題仕様書 各1部
- 標準課題動作チェックシート 1部
- ステーション製作用部品 一式
- 課題データ復号化用パスワード
- 応用課題仕様書 1部（標準課題合格後に配布）

課題開始状態

- 支給品ボックス未開封状態。
- 全ての電源 OFF。
- メモリクリア完了状態、新規プログラム作成状態。
- ステーションは連結され、設備チェック完了状態。
- 課題データは復号化済み。PDF ビューアは起動してよいが、課題データの閲覧は禁止。
- 無線 LAN アクセス可能状態。

合図（主査または競技委員）

1分前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始1分前」
 30秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始30秒前」
 10秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始10秒前」
 開始 ホイッスル音 + 「メカトロニクス職種競技開始」アナウンス

競技準備（審査員）

- ストップウォッチのスタート準備をする。
- 作業机、いす、または床の上のいずれかの選手の希望する場所に、配布資料（応用課題仕様書を除く）と支給品を置く、または選手自身に置かせる。（一旦置いたらホイッスルの合図まで手を触れさせない）
- 封筒に入っている課題データ復号化用パスワードの確認と復号化を指示する。
- 課題開始直前の状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていないなど、時刻通りのスタートが困難と判断した場合は、主査へ声や挙手で合図をする。

課題実施要領（競技標準時間の前半）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で競技を開始する。課題開始後、課題データの閲覧、コピー・印刷、ウイルスチェックを許可する。
- ステーションの組み立て・配線・配管・調整を行い、単体運転の動作プログラムを作成する（単体動作）。
- 競技用 FA モデルの各ステーションを連結した生産設備を構築し、ネットワーク運転の動作プログラムを作成する（標準課題）。

合図（主査または競技委員）

終了 ホイッスル音 + 「メカトロニクス職種競技終了」
 「審査を受けていないチームは作業を終了し、審査を受けたチームは審査員の指示に従うこと」

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。

昼休み

- 競技終了の合図（ホイッスル）で作業を終了し、必要最小限の片付け（使用した工具を戻すなど）を行い、新規ステーションに布を掛け指示があるまでその場で待機する。
- 選手は選手昼食エリアにて休憩し、エリア外への移動を制限する。
- 外部・他チームとの情報交換を禁止する。
- 資料の参照、ペンの使用、メモ等は原則として禁止する。
- 圧着端子補充等の作業準備をしてはならない。

昼休み（審査員）

- 競技終了のホイッスルと同時に作業を停止させる。ストップウォッチを停止し、時間を記録する。
- 新規のステーションに布を掛けさせ、その場で待機させる。競技委員の指示のもと選手昼食エリアへの移動を促す。
- 選手、審査員ともに、外部との接触や連絡を禁止する。

後半の競技

合図（主査または競技委員） 1分前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始1分前」 30秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始30秒前」 10秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始10秒前」 開始 ホイッスル音 + 「メカトロニクス職種競技開始」アナウンス

課題実施要領（競技標準時間の後半）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で、布が掛かっている状態から後半の競技を開始する。
- 審査員からは、標準時間終了5分前、標準時間終了1分前、標準時間終了の合図がある。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格したチームは、審査員からの競技終了の合図で作業をやめ、選手待機スペースに移動して待機する。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員から標準時間終了の合図があっても作業を継続する。

競技標準時間内の課題提出

- 標準時間内に単体動作と標準課題の動作プログラムが完成した場合は、課題を提出し、単体動作・標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。ただし、単体動作の採点は第1課題中に1回限りとし、2回目以降の課題提出時には採点しない。
- 審査が終了したら、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が第1課題中に計5回に達した場合は、競技打ち切りとし、競技説明エリアに移動して課題審査時間まで待機する。標準課題と外観の両方に合格した場合は、審査員から応用課題仕様書を受け取り、応用課題の動作プログラムを作成する。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格し、さらに応用課題を終了した場合は、課題を提出し、選手待機スペースに移動して課題審査時間まで待機する。

後半の競技スタート（審査員）
● 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチの動作を再開させる。

競技標準時間終了の告知（審査員）
● 競技開始からの計測時間に従い、競技標準時間終了の告知を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 4時間55分：標準時間終了5分前 ➢ 4時間59分：標準時間終了1分前 ➢ 5時間00分：標準時間終了
● 標準時間終了時、標準課題・外観ともに合格しているチームは計時を終了し、選手を選手待機スペースで待機させる。それ以外のチームは、競技延長時間として作業を続行させる。

競技標準時間内の採点（審査員）
● 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
● 以後の作業は禁止とする。
● 第1課題中、1回目の課題提出であれば、単体動作・標準課題の採点を行う。2回目以降の標準課題提出であれば、標準課題の採点を行う。
● 標準課題採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
● 外観採点の結果、合格であれば、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させ、選手に応用課題仕様書を渡す。
● 採点の結果、標準課題または外観が不合格の場合は、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計5回に達した場合は競技を打ち切り、審査時間まで選手を選手待機スペースで待機させる。
● 応用課題の提出（全課題終了）であれば、課題審査時間まで選手を選手待機スペースで待機させる。

審査項目	担当者	内容
単体動作	審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。
標準課題	審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観	競技委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 外観が合格かどうかを審査する。

第1課題（競技延長時間）

競技を延長しないチームの採点

- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格したチームは、指示に従って各チームの競技エリアに戻り、応用課題・組立の採点を行う。提出する応用課題の順番は、仕様書に指定がなければ任意とする。
- 標準時間内に競技打ち切りとなったチームは、指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の採点を行う。

課題実施要領（競技延長時間）

- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、標準時間に引き続いて作業を行う。
- 審査員からは、延長時間終了5分前、延長時間終了1分前、延長時間終了の合図がある。

競技延長時間内の課題提出

- 延長時間内に単体動作と標準課題の動作プログラムが完成した場合は、課題を提出し、単体動作・標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。ただし、単体動作の採点は第1課題中に1回限りとし、2回目以降の課題提出時には採点しない。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格したチームは、競技を終了し、選手待機スペースに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の審査を受ける。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が第1課題中に計5回に達した場合は、競技打ち切りとし、競技説明エリアに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の審査を受ける。

延長時間終了後

- 延長時間終了により競技打ち切りとなったチームは、選手待機スペースに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の審査を受ける。

競技延長時間（審査員）

- 競技を延長しないチームは、審査担当者が揃い次第、選手を各チームの競技エリアに移動させ、採点を行う。採点終了後、選手を選手待機スペースで待機させる。
- 競技標準時間内に標準課題・外観がともに合格にならなかったチーム（競技打ち切りチームを除く）は、競技標準時間に引き続き、第1課題の競技を実施する。

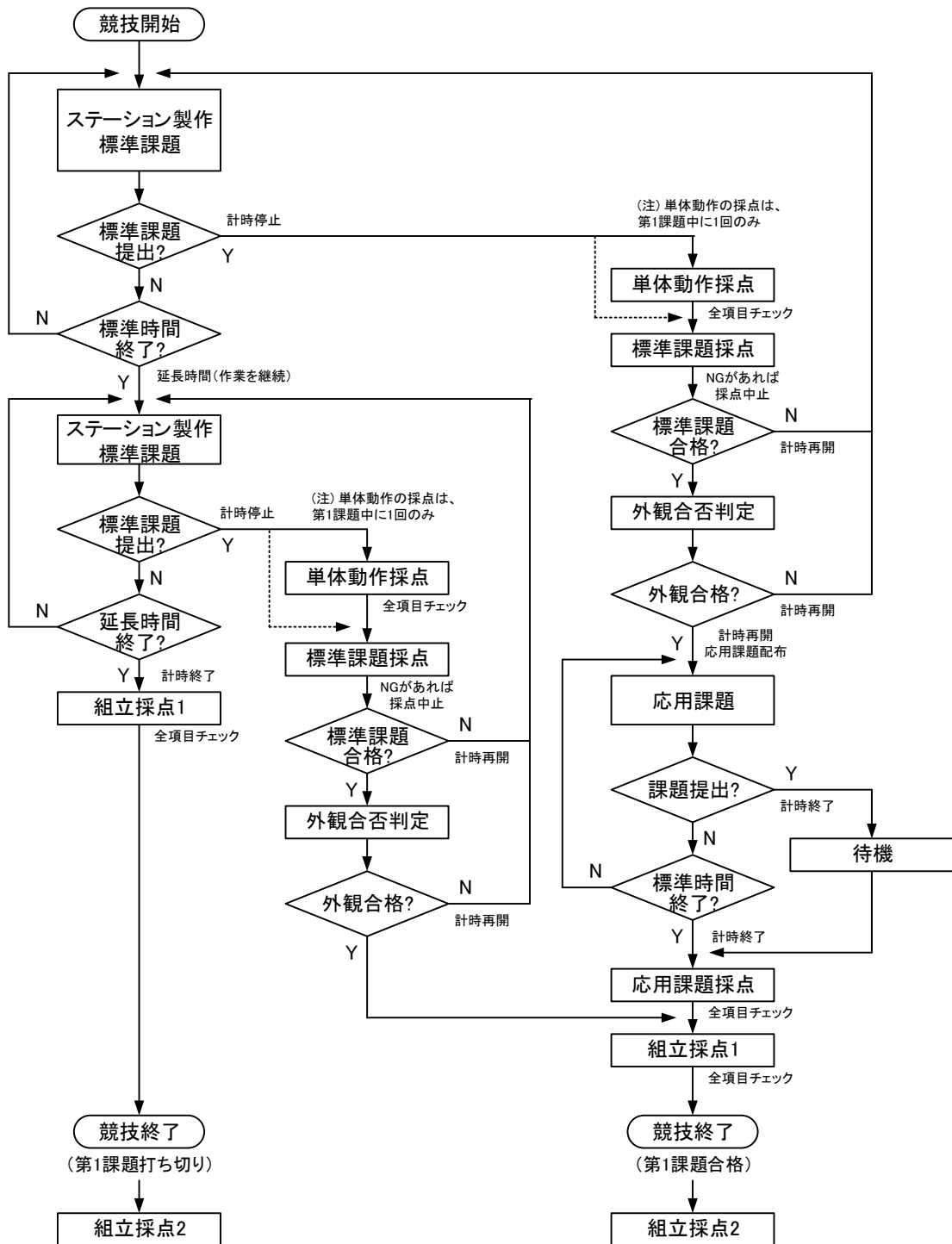
競技延長時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技延長時間終了の告知を行う。
 - 5時間55分：延長時間終了5分前
 - 5時間59分：延長時間終了1分前
 - 6時間00分：延長時間終了（競技打ち切り）

競技を延長したチームの採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とする。
- 第1課題中、1回目の課題提出であれば、単体動作・標準課題の採点を行う。
- 2回目以降の標準課題提出であれば、標準課題の採点を行う。
- 標準課題採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果、合格であれば、計時を終了し、選手を選手待機スペースで待機させる。
- 採点の結果、標準課題または外観が不合格の場合は、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計5回に達した場合は競技を打ち切り、選手を選手待機スペースで待機させる。
- 審査担当者が揃い次第、選手を各チームの競技エリアに移動させ、採点を行う。採点終了後、選手を選手待機スペースで待機させる。

審査項目	担当者	内容
応用課題	審査員または競技委員 計2名以上	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートにより審査を行う。 採点する課題の順番は、チェックシートに指定がなければ選手の希望する順とする。 採点中にNG項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。
組立	審査員または競技委員 計2名以上	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートにより審査を行う。 採点中にNG項目があっても、採点可能な項目は全て採点する。 一部項目は競技終了後、競技委員のみで審査を行う。



片付け

合図（主査または競技委員）

全チームの審査終了確認後、審査終了を宣言
準備状況を確認したのち、10秒前アナウンス「片付け10秒前」
開始「はじめ」

- 開始の合図（「はじめ」）で、片付けを開始する。
- 必要に応じて予備部品の補充を行う。
- プログラムの修正、メモは禁止する。
- 各チーム、以下の状態にする。
 - エアコンプレッサ OFF
 - 全ステーションの電源ブレーカ OFF（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）
 - ステーションに布を掛ける
 - 競技エリアを整理整頓する（レイアウトを変更しても良い）
 - 第1課題で配布された全資料を封筒に入れ、机の上に置く
- 審査員から片付け時間終了の合図がある。
- 片付け時間が終了したら、速やかにエリアから退出し、プラチェーン外へ退場する。
- 標準時間内に標準課題が終わらなかった場合、応用課題仕様書は配布されない。

片付けスタート（審査員）

- 片付け開始の「はじめ」の合図と同時にストップウォッチを動作させる。

片付け時間内（審査員）

- 選手が片付けおよび予備部品補充以外の作業を行わないことを確認する。

片付け時間終了の告知（審査員）

- 片付け開始からの計測時間に従い、片付け時間終了の告知を行う。
 - 10分経過：片付け時間終了、退出指示

準備時間終了後（審査員）

- 選手を競技エリアから退出させ、さらにプラチェーン外への退出を促す（再入場禁止）。
- 選手が資料・機材を持ち出さないか確認する。
- 第1課題で配布した全資料を回収し、競技委員に提出する。

第2課題（第1課題合格のチーム）

配布資料・支給品

- 前日回収した第1課題の資料一式（競技開始前に配布）
- 前日の「組立採点2」の採点結果1部（競技開始前に配布）
- メンテナンス課題仕様書1部
- 第2課題動作チェックシート1部
- 改造用部品一式（競技開始時に支給。支給部品がない場合もある。）
- 課題データ復号化用パスワード

課題開始状態

- ステーションに布をかけたままとする。
- エアコンプレッサ起動。
- 全ステーションの電源ブレーカ OFF（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）。
- はんだごて等は電源を入れて良い。
- パソコンのプログラミングソフト立ち上げ完了、ケーブル接続可。
- 第1課題の全資料を封筒から取り出し、展開して良い。
- 課題データは復号化済み。PDFビューアは起動してよいが、課題データの閲覧は禁止。
- 無線LANアクセス可能状態。

合図（主査または競技委員）

1分前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始1分前」
 30秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始30秒前」
 10秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始10秒前」
 開始 ホイッスル音 + 「メカトロニクス職種競技開始」アナウンス

課題実施要領（メンテナンス課題）

- 競技開始の合図（ホイッスル）でメンテナンス課題を開始する。
 課題開始後、課題データの閲覧、コピー・印刷、ウイルスチェックを許可する。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

課題提出（メンテナンス課題）

- 全ての作業が完了したら課題を提出し、動作・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。動作は、第2課題動作チェックシートで審査する。
- 審査の結果、動作と外観の両方に合格したチームは、組立の採点を行い、競技を終了する。
- 審査の結果、動作と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、不合格回数が4回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 競技打ち切りの場合、組立の審査を受ける。

競技準備（審査員）

- 前日回収した第1課題の資料を選手に渡す。（選手が封筒から出して展開すること、課題データを開くことを認める。）
- 封筒に入っている課題データ復号化用パスワードの確認と復号化を指示する。
- ストップウォッチのスタート準備。
- 作業机、いす、または床の上のいずれかの選手の希望する場所に、新規配布資料や支給品を置く、または選手自身に置かせる。（一旦置いたらホイッスルの合図まで手を触れさせない）
- 課題開始直前の状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていないなど、時刻通りのスタートが困難と判断とした場合は、主査へ声や挙手で合図をする。

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 1時間55分経過：競技終了5分前
 - 1時間59分経過：競技終了1分前
 - 2時間経過：競技時間終了（競技打ち切り）

課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止し、課題審査（動作、外観の採点）を行う。
- 動作、外観の採点結果が全項目OKの場合、組立の採点を行い、競技終了とする。
- 動作採点または外観採点の結果がNGの場合、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計4回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 競技打ち切りの場合、組立の採点を行う。

技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 競技要領

審査項目	担当者	内容
動作	審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中に NG 項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観	競技委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 外観が合格かどうかを審査する。
組立	審査員 (1名)	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中に NG 項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。

競技終了後

- 装置の電源を切り、選手待機スペースに移動する。装置に布はかけない。

競技終了後（審査員）

- 装置の電源を切り、適度に整理整頓をさせ、選手を選手待機スペースに移動させる。装置に布をかけない。

第2課題（第1課題打ち切りのチーム）

配布資料・支給品

- 前日回収した第1課題の資料 一式（競技開始前に配布）
- 前日の「組立採点2」の採点結果 1部（競技開始前に配布）
- メンテナンス課題仕様書 1部（外観合格後に配布）
- 第2課題動作チェックシート 1部（外観合格後に配布）
- 改造用部品 一式（外観合格後に支給。支給部品がない場合もある。）
- 課題データ復号化用パスワード（外観合格後に配布）

課題開始状態

- ステーションに布をかけたままとする。
- エアコンプレッサ起動。
- 全ステーションの電源ブレーカ OFF（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）。
- はんだごて等は電源を入れて良い。
- パソコンのプログラミングソフト立ち上げ完了、ケーブル接続可。
- 第1課題の全資料を封筒から取り出し、展開して良い。
- PDFビューアは起動してよいが、課題データの閲覧は禁止。
- 無線LANアクセス可能状態。

競技準備（審査員）

- 前日回収した第1課題の資料を選手に渡す。（選手が封筒から出して展開すること、課題データを開くことを認める。）
- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始直前の状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていないなど、時刻通りのスタートが困難と判断した場合は、主査へ声や挙手で合図をする

合図（主査または競技委員）

1分前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始1分前」
 30秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始30秒前」
 10秒前アナウンス「メカトロニクス職種競技開始10秒前」
 開始 ホイッスル音 + 「メカトロニクス職種競技開始」アナウンス

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。

課題実施要領（第1課題継続）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で、第1課題を開始する。
- 標準課題の動作プログラムが完成したら課題を提出し、標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。標準課題は、第1課題動作チェックシートで審査する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格したチームは、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

標準課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とし、審査を行う。
- 動作採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果、合格であれば、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、動作もしくは外観が不合格であれば、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 1時間55分経過：競技終了5分前
 - 1時間59分経過：競技終了1分前
 - 2時間経過：競技時間終了（競技打ち切り）

技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 競技要領

審査項目	担当者	内容
動作 (第1課題)	審査員	<ul style="list-style-type: none"> • チェックシートにより審査を行う。 • 採点中に NG 項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観 (第1課題)	競技委員	<ul style="list-style-type: none"> • 外観が合格かどうかを審査する。

課題実施要領（メンテナンス課題）

- 審査員の合図で審査員から資料を受け取り、メンテナンス課題を開始する。
課題開始後、課題データの閲覧、コピー・印刷、ウイルスチェックを許可する。
- （以下、第1課題合格チームと同じ）

メンテナンス課題スタート（審査員）

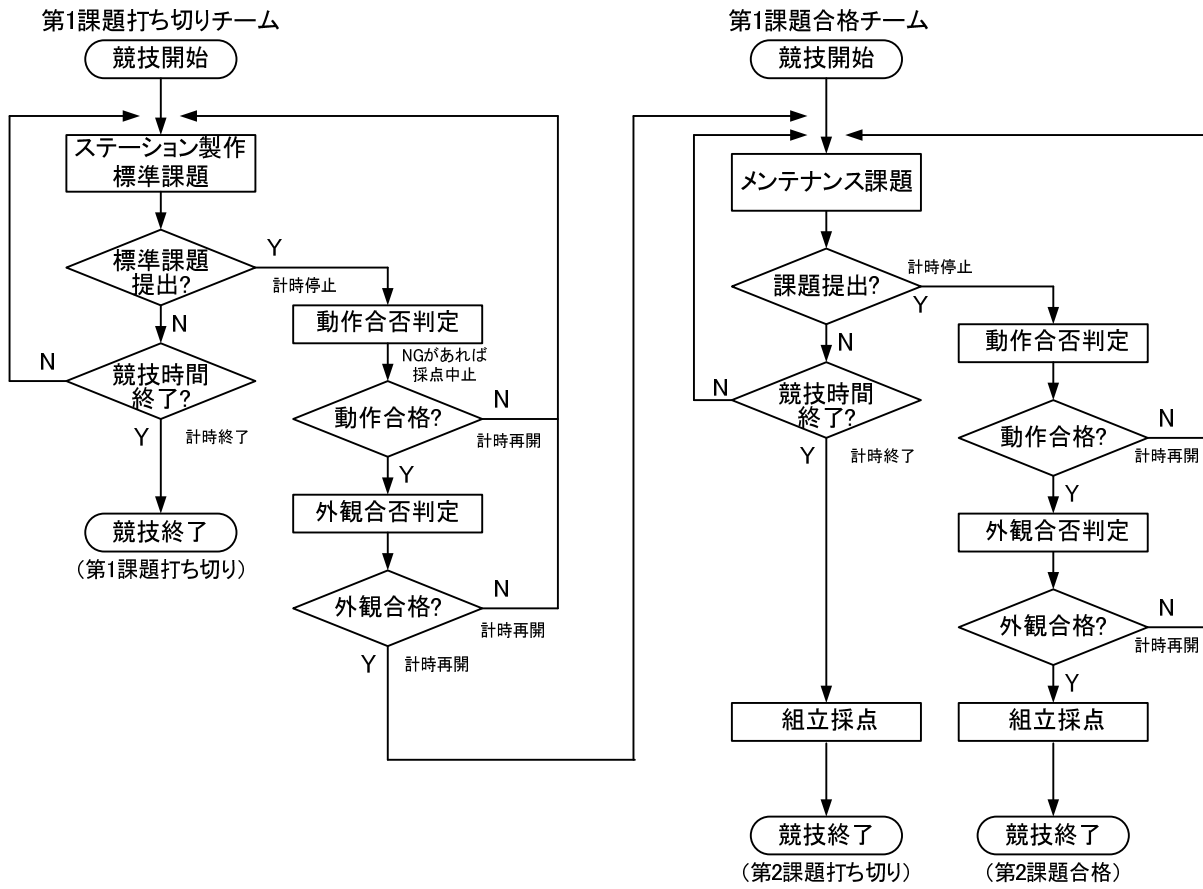
- 第1課題（動作、外観）合格であれば、選手へ配布資料と支給品を渡す。
- 封筒に入っている課題データ復号化用パスワードの確認と復号化を指示する。
- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題データ復号化を確認後、選手にメンテナンス課題開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。
- 競技時間は通算する（リセットしない）。

競技終了後

- 装置の電源を切り、選手待機スペースに移動する。装置に布はかけない。

競技終了後（審査員）

- 装置の電源を切り、適度に整理整頓をさせ、選手を選手待機スペースに移動させる。装置に布をかけない。



配布資料一覧

第62回 技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 当日配布資料一覧

第1課題	選手用			審査員用	備考
	形態	配布	回収		
審査記録用紙				1	
採点表表紙				2a	
単体動作チェックシート				2b	
標準課題動作チェックシート	封1	開始時	第2準備後	2c	
応用課題動作チェックシート				2d	
組立チェックシート				2e	
ステーション製作仕様書	封1	開始時	第2準備後	3	
単体動作仕様書	封1	開始時	第2準備後	4	
標準課題仕様書	封1	開始時	第2準備後	5	
応用課題仕様書	封2	外観合格時	第2準備後	6	
製作図面	封1	開始時	第2準備後	7	
部品図面	封1	開始時	第2準備後		
課題データ解凍・復号化パスワード	別封筒	競技開始時			
ステーション製作用部品	箱1	開始時			

封1: 審査員が作業机の上に配布。競技開始まで開封禁止。
 封2: 標準・外観合格後、審査員が作業机の上に配布。リスタート時まで開封禁止。
 箱1: 競技委員が課題説明エリアの机の上に配布。競技開始まで開梱禁止。
 第2課題の準備終了後、封1、封2に入れて課題を回収。

第2課題	選手用			審査員用	備考
	形態	配布	回収		
前日回収した全資料	封1、封2	開始前(展開可)			
組立採点2の採点結果	紙1	開始前(参照可)		0	
審査員記録用紙				1(再)	
採点表表紙				2a	
標準課題動作チェックシート				2b	第1課題合格チームは使用しない
第2課題動作チェックシート	封3	メンテ開始時		2c	
第2課題組立チェックシート				2d	
メンテナンス課題仕様書	封3	メンテ開始時		3	
課題データ解凍・復号化パスワード	別封筒	メンテ開始時			
改造用部品	箱2	メンテ開始時			
ステーション製作仕様書				4(再)	
標準課題仕様書				5(再)	
製作図面				6(再)	

紙1: 競技委員が課題説明エリアの机の上に配布。参照可。
 封1、封2: 競技委員が課題説明エリアの机の上に配布。競技準備時に展開可。
 封3、箱2: メンテナンス課題開始前に、審査員が作業机の上に配布。課題開始まで開封(開梱)禁止。